

第 2 回 白馬村計画審議会 会議録（要旨）			
日 時	令和 7 年 8 月 28 日(木) 13:30～15:30		
場 所	白馬村保健福祉ふれあいセンター 2 階 学習室		
出 席 者 数	26 名		
区分	団体・役職	氏 名	出席
村議会議員	白馬村議会議長	太田 伸子	－
村議会議員	白馬村議会副議長	丸山 和之	－
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	松沢 亨	○
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	服部 知子	○
村農業委員会委員	白馬村農業委員会	松沢 正猛	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村区長会	太田 岳人	○
公共的団体の役員及び職員	白馬商工会	山本 孝男	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村消防団	星河 隆志	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村シニアクラブ	徳竹 禎三	－
公共的団体の役員及び職員	白馬村民生児童委員協議会	太田 文敏	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村身体障害者福祉協会	飯島 忠一	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村スポーツ協会	横山 秋一	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村スキークラブ	横川 和彦	○
公共的団体の役員及び職員	しろうま女性会	田口 令子	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村社会教育委員	富山 正明	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村都市計画審議会	宮尾 英明	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光地経営会議	丸山 徹也	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村4校 PTA 連絡協議会	今西 ひさ美	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村ボランティア連絡協議会	西浦 知子	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光局	福島 洋次郎	○
学識経験を有する者	特別養護老人ホーム白嶺所長	岡田 記子	○
学識経験を有する者	大北農業協同組合白馬支所長	市河 明広	○
学識経験を有する者	白馬村金融団幹事	白田 友和	○
学識経験を有する者	白馬村建設業組合長	太田 具英	○
学識経験を有する者	白馬村索道事業者協議会会長	星野 裕二	○
学識経験を有する者	Hakuba International Business Association	イアン・ミラー	－
学識経験を有する者	白馬 EV クラブ	渡辺 俊介	○
公募による村民	公募委員	津滝 俊幸	○
公募による村民	公募委員	松橋 舞	○
公募による村民	公募委員	高田 明利沙	○
事務局	白馬村役場 総務課長	田中 克俊	○
事務局	白馬村役場 GX 統括監	白濱 雄太	－
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係長	渡邊 宏太	○
事務局	白馬村役場 総務課 情報まちづくり係長	田中 元気	○
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係	小林 啓	－

1. 開 会

【事務局 田中総務課長】

開会を宣言した。(進行:事務局 田中総務課長)

2. あいさつ

【松沢会長】

ご多忙の中、第 2 回計画審議会にご出席いただき感謝申し上げます。立秋を過ぎ処暑を迎えたにもかかわらず、危険な暑さが続いている。委員の皆さんも体調管理にご留意いただきたい。

今回は計画策定の方針や現行の第 5 次総合計画の評価、村民アンケートで寄せられたご意見等を共有しながら皆さんと意見を交換させていただいた。また、7 月 30 日(水)には「10 年後の白馬村」をテーマにワークショップが開催され、多くの方にご参加いただいた。活発な意見交換が行われ、白馬村の将来に対する想いや様々な視点が共有され、充実した時間であった。

本日の審議会では、ワークショップの報告や基本構想の方向性を協議事項としている。少し先が見える状況になってくるかと思うが、奇譚のない建設的なご意見をいただくようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

3. 報告事項 (進行:松沢会長)

(1)村民ワークショップの結果報告

【事務局 渡邊企画政策係長】

資料 1 により説明した。

その後、会場壁面に掲示した「ワークショップで出された意見(模造紙に貼った付箋)」を見ながら、各委員がワークシート①「村民ワークショップの意見を見た感想」に記載し、グループの中で感想を共有した。

グループ内の共有や各グループの発表において、共感した他の委員の意見についてもシートに記載した。

【グループ A】

- ・ワークショップに参加したが、若い世代の人も多く、やる気に満ちた雰囲気を感じた。
- ・一方で、シニア世代の参加者が少なかったこともあってか、福祉分野の意見が少ないように感じた。

【グループ B】

- ・ワークショップに参加したが、山岳景観の美しさや自然環境を守りたいという意見が多かったと感じた。
- ・開発や地価高騰、耕作放棄地の増加を不安に思う方が多く、速やかな法改正も含めて、何かしらの手段で対応できると良い。

- ・ 宿泊税だけでなく、他の税等の財源も増やしていけると村民の暮らしの豊かさにつながるのではないかな。

【グループ C】

- ・ 出された意見は多様であるが前向きで共感するものがほとんどであった
- ・ 行政の業務内容が多岐にわたっていることを改めて認識した。
- ・ コミュニティの重要性を改めて感じた。
- ・ 参加者の知識が広く深く感心した。
- ・ ワークショップ参加者は移住者が多かった。各地区で開催するなどして、白馬村で生まれ育った人も参加しやすい形にしてみようというのではないかな。

【グループ D】

- ・ 非常にたくさんの意見があり、白馬村の将来を真剣に考えている人の多さに驚いた。
- ・ コミュニティを活性化していくためには、白馬村の歴史や文化なども学んだ上で、現在の状況、そして将来のあり方を考えることも大切だと感じた。

【グループ E】

- ・ 自然と景観が財産であることは白馬村民の共通認識であると改めて感じた。
- ・ 村民それぞれの立場により、同じことでもプラスに捉える人、マイナスに捉える人がいると思った。

【グループ F】

- ・ 「自然環境」という言葉が第一である。
- ・ 移住されてきた方々の感性で白馬の魅力を引き上げていくことも大切。
- ・ 外資による開発が懸念事項で、何か規制を検討した方が良く感じる。
- ・ 子育て世帯が安く住めるような住宅を整備して、若い人たちの村外流出を防ぐ必要がある。
- ・ 観光関連の仕事はあるが、それ以外の仕事をどうつくっていくかが課題。
- ・ 若い人たちの就農を積極的に支援したい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

庁内検討委員会でも同様に村民の意見を踏まえて議論しているが、一つの事象に対して、良いことと悪いことが表裏一体であることが多いという意見が出ている。物事の定理ではあるものの、できるだけ悪い影響を抑えながら、良い面を伸ばしていく方策を考えていきたい。

4. 協議事項（進行：松沢会長）

(1)人口ビジョンについて

【事務局 渡邊企画政策係長】

資料 2 により説明した。

*主な補足事項

- ・ 5 年前の推計値に比べ、若干減少幅が小さくなっているが、10 年毎に 700～800 人ずつ減少していく見込みである。

- ・ 直近の 25 年間で、年少人口はおおよそ半減、生産年齢人口は約 25%減少し、老年人口は 50%増加している。
- ・ 出生率は県内で 7 番目に低く、令和 6 年度(2024 年度)の出生数は 34 人で、過去最少を更新した。
- ・ 転入出者数が増えているのは冬季に外国人労働者が住民登録するため、12 月に転入し、3 月～4 月に転出するため、人口動態上は 1 年ずれて計上されている。
- ・ 通年で定住する外国人住民も増加傾向にあり、この 10 年間で約 3 倍に増えている。

今回示したものは「検討資料」であり、最終的な人口ビジョンには各種施策により推計人口の値をどう変化させていくのか示す必要がある。

人口が増えれば経済や医療も充実し、産業の人材や地域の担い手も確保され、教育面でも活動の選択肢が増えるといったことが考えられるが、住宅やインフラの整備が必要であり、景観・環境等の悪化も懸念されるほか、一人ひとりの帰属意識・当事者意識も相対的に弱くなるといった可能性も考えられる。

そういったことも踏まえて、白馬村の理想的な人口はどれくらいなのか、今後どう推移していくのがいいのか、ワークシート②に委員の皆さんの意見を記載いただきたい。

また、今いる人もこれから移住してくる人も含めて、どういう村民が増えたら嬉しいと思うか。ワークショップの意見でも「子ども」や「若者」というが多くあったが、そういった世代の視点でもいいし、人間性や価値観の視点でも構わないので、ワークシート③に考えを記載いただきたい。

その後、グループ内で一人ひとりの意見や考えを共有し、各グループの対話の内容を全体に発表いただきたい。

【グループ A】

- ・ なんとか現状を維持したいという意見が多かった。スキーブームの頃の人口が 7,000 人くらいで、長期的に減少を受け入れざるを得ないとしても、それくらいの規模を維持しながら発展していければ良いと思う。

【グループ B】

- ・ 増加または維持を目指す意見があり、減少を受け入れるという意見はなかった。
- ・ 増加を目指すにあたっては、住宅や仕事が課題。療養型の病院等があれば人口増につながるのではないかという意見もあった。
- ・ 地域の伝統行事や災害時の消防団活動などを考えても、一定の人数は必要であり、人口が減ると様々な活動の規模縮小や衰退につながってしまう。

【グループ C】

- ・ 行政サービスや社会福祉サービスを維持するためには現在の規模を維持する必要がある。
- ・ 白馬村の今の状況は、外部的にもチャンスであるため、こういったタイミングでしっかり増やすことに取り組み、長期的には維持を目指すという意見が多かった。
- ・ 一方で、増え続ければ良いというものでもなく、「村らしさ」は失いたくないという意見もあった。
- ・ 増えてほしい村民については、「子ども」という意見が多く、年齢構成を改善する必要があると考える。
- ・ 若い人のエネルギーや考え方をまちづくりに取り込んでいくことも重要。
- ・ 地域の文化を尊重してくれる人、新しい文化を創造してくれる人、地域活動に参加する人、白馬のことを愛して長く住んでくれる人、地域で働いてくれる人が増えると嬉しい。

【グループ D】

- ・ 目標としては「増加」を目指すのが良いという意見が多かった。
- ・ 移住希望者はたくさんいるが、住宅事情や通年雇用など課題が多い。解決すべき課題は明確であるため、他自治体と比べると人口増の可能性は高いのではないかと。
- ・ 出生数の推移を見て愕然とした。34 人は衝撃的な数字であり、子どもがいる世帯や、これから出産・子育てをしていく若年層を増やせたらいいと思う。

【グループ E】

- ・ 人口推計を鑑みると維持が精一杯かと思うが、目標としては「増加を目指す」くらいでも良いのではないかとという意見があった。
- ・ 索道事業者等においても通年雇用が増加傾向にあるが、村内に住むのはごく一部で、多くの社員は村外から通勤している状況である。村内に住める環境を確保できれば、人口を増やすことができ、税収増にもつながる。住環境の整備に合わせて、近隣市町村と同程度の定住補助金や教育・給食等の費用負担軽減も必要かと思う。
- ・ 近い目標では増加を目指す、中期的には維持、長期的には減少を受け入れざるを得ないのではないかとという意見もあった。

【グループ F】

- ・ 一般論として「増えた方がいい」という思いはあるが、現実的に考えると難しい。いかに減少を抑えるか考えると、子どもを増やすための政策を打ち、出生数・出生率を上げていくことが必要ではないか。

(2) 基本構想の方向性について

【事務局 渡邊企画政策係長】

資料 3 について説明した。

＊アンケートやワークショップ等の意見も踏まえ、基本理念に取り入れたい要素として以下の 4 点を挙げた。

1. かけがえのない自然資源・豊かな環境を守り、次世代に受け継ぐ
2. 住民のつながりを大切にし、幸せに暮らし続けられる地域を築く
3. 来訪者をあたたかく迎え、変化を受け容れながら多様な人々と共生する
4. 先人が築いた歴史・文化を守り、尊重する

【松沢会長】

委員に質問や意見を求めた。

【津滝委員】

第 3 次総合計画では、3 つのリーディングプロジェクトを掲げているが、第 4 次・第 5 次では基本理念を一文で示している。第 6 次総合計画の基本理念はどうするか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

現時点では、方針や姿勢を端的に一文で示す言葉を掲げようと思っている。誰にでもわかりやすい平易な

表現としたい。その上で、基本理念を説明する文章やそれを実現するための施策について記載していくつもりである。

(3)自治基本条例(仮)について

【事務局 渡邊企画政策係長】

資料 4 について説明した。

【松沢会長】

「自治体の憲法」という説明があったが、自治基本条例は規制や罰則を規定するものではないという認識で差し支えないか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

規制や罰則を規定する条例にはならないと考えている。

【松沢会長】

条例の下に規則等を制定することになるのか。また、条文は抽象的な表現になるのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

自治基本条例の理念的な部分に関しては、抽象的というか概念的な文章になり、規則というよりも他の条例等で実現のための施策や手段を定めていくことになると考えている。手続き的な部分に関しては具体的な表現になるが、施行規則等を設けている自治体もあるため、その辺りは今後検討を進める中で判断したい。

【西浦委員】

土地の取引を懸念する声も多いが、そういったものの規制も関係してくるのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

自治基本条例で具体的な規制をかけることはないが、自治基本条例において村としての考え方を示し、具体的な規制や手続き等については、既存または新規の別の条例等でルールを設けていくことになると考えている。まちづくりの住民参加に関する手続き等については具体的な内容まで踏み込む可能性はある。

【松沢会長】

他に発言がなく、質疑を終結した。

【事務局 渡邊企画政策係長】

第 6 次総合計画の基本構想と自治基本条例(仮)に関連して、白馬村の将来像を描くにあたり、ワークシート④にある「将来に向けて最も大切にしたい『白馬村らしさ』」を考えていただきたい。

これに限っては、たくさん書くのではなく、できるだけ絞り込んで端的に記載してほしい。また、「自然環境を

守る」というのは大前提としてほとんどの村民が望んでいることが明白であり、計画や条例に謳い込んでいくことはほぼ確実であるため、それ以外の視点で大切にしたい「白馬村らしさ」を記載いただけるとありがたい。

まずは各自で考えて、その後グループ内で共有し、最後に全体に発表いただきたい。

【グループ A】

- ・ グループ内の意見をまとめると、白馬のことを誇りに想い、愛し、育てていく「白馬人」が多く住んでいる場所であること、それが「白馬村らしさ」である。
- ・ 大切なのは、村民の心や意識であり、それをどう育てていくかが鍵となる。

【グループ B】

- ・ 端的にというのが難しいという意見も多かったが、「この地で生まれ育った白馬っ子が帰って来られる村」であることは大切にしたいという話になった。
- ・ それが実現できれば、人口減少を抑えることにもつながると考えられる。

【グループ C】

- ・ 本日の審議会やワークショップ等の意見も踏まえて、最も大切にしたい白馬村らしさは「『白馬村が大好き』という気持ち」ではないかという結論に至った。
- ・ また、「白馬村らしさ」が何なのか常に考えて暮らすことも「白馬らしさ」につながるという意見もあった。
- ・ 具体的な観点では、民宿文化に由来するような「ゲストと住民が楽しい時間を過ごせる場や機会」といったことや、密ではない程良い距離感、集落ごとのコンパクトなまとまりも「白馬村らしさ」と考える。

【グループ D】

- ・ 村民も来訪者も、人と自然を敬い、ルールを守って暮らしたり過ごしたりすること。白馬の村づくりとしては、それを大切にしていきたい。

【グループ E】

- ・ それぞれに想う「白馬らしさ」があるが、共通していることも多く、みんなが大切にしたいものを一緒に学んで協力して守っていく方向性があるといいと感じた。
- ・ 白馬で生まれ育った子どもたちが一度外に出て「友人や家族を連れて戻ってきたい」と思ったり、村民が「住み続けたい」と思ったりするためには、仕事も大切であるが、住環境やインフラの整備も大切である。働くところも、暮らすところも、育つところも、すべて白馬村になるような環境が整うことが理想である。

【グループ F】

- ・ 厳しい環境で大きな産業も無い中で、山岳観光とともに発展してきた文化こそが「白馬村らしさ」ではないか。
- ・ 外国人住民が増えているが、地域に関わろうとする外国人が多いことも「白馬らしさ」であると感じている。
- ・ その辺りを活かした村づくりができると良い。

【事務局 渡邊企画政策係長】

ワークシートに書き込むときにも、グループで対話しているときにも、「難しい」という声が聞こえてきた。限られた時間に難問を次々と投げかけて申し訳ないが、本日も委員の皆さんと一緒に考えることで見えてきた部分もあると感じている。また、こうして様々な分野の委員の皆さんが村の将来について対話すること自体に意義があり、まさに自治の根幹である。奇譚のないご意見をお出しいただいていることに感謝するとともに、引き続きご理解とご協力をいただきたい。

5. その他

【事務局 田中総務課長】

事務局から事務連絡をお伝えする。

【事務局 渡邊企画政策係長】

次回の審議会は 10 月に開催したいと考えている。ここまでの検討経過を踏まえ、次回は人口ビジョンの素案や基本構想の素案をお示ししたい。できるだけ多くの委員にご出席いただけるよう日程を調整するとともに、会議資料も事前に配布したい。

6. 閉会

【事務局 田中総務課長】

グループでの対話の中で「ニセコ化」といった話もあったが、自治基本条例については平成 13 年にニセコ町が「まちづくり基本条例」を制定したことが先駆けとなり、全国に広がっていった。

様々な面でニセコ町からも学びながら、委員の皆さんや村民の皆さんに納得してもらえるような計画・条例をつくっていきたい。

委員のご理解・ご協力に感謝申し上げ、以上で第 2 回計画審議会を閉会する。